



トrehac 健・康・新・聞



<http://www.shobo.jp/>
January. 2007

Winter

2007年(平成19年)1月30日
季刊・年4回発行
編集兼発行人／平澤良一
発行所／株式会社トレハクラブ
TEL:03-5963-5121
FAX:03-5963-5127
〒115-0055
東京都北区赤羽西1-36-14
エミネンスタワー5F
E-mail:info@trehaclub.co.jp
<http://www.shobo.jp/>
印刷／ミズカミ

南米のパリへ

日本から国際線で1日か

かり、ようやく到着したのが南米のアルゼンチン。私は国際会議のため、首都ブエノスアイレスを訪れた。

自然豊かな国で、蒼い空や緑の草原が広がる。温帯

気候で過ごしやすく、四季が美しい。南半球なので、日本と季節が逆。時差もちょうど12時間と、日本から見ると地球の反対側だ。

歴史を少しひもといてみた所に、数百年かけてヨーロッパからの移民が築いた街なのだ。そのためブエノスアイレスは「南米のパリ」と呼ばれている。

融合した文化

会議では興味深いことが。公用語は英語かスペイン語の2つ。スペイン語で話し始めた人が途中から急に英語へ切り替え、ハツとすることもあつた。

このような事情から、街の雰囲気や文化土壤、さらにもう一つ、物の考え方なども、歐米とラテンの両者が融合してきているように思う。

たとえば有名な音楽として、アルゼンチンタンゴがある。本来、キューバのハバネラにヨーロッパのワルツやポルカ、ミロンガなどの民族音楽が融合し、長い期間をかけて成熟してきたものだ。

サッカーが熱いボカ

地元の聴衆も誰もが熱い！音楽に人生に情熱を傾ける姿勢が伝わってきた。

サッカーのメッカ・ボカ

タンゴが誕生した場所はブエノス・アイレスの場末ボカ地区。ここは有名なサッカーチームのボカ・ジュニニアーズの本拠地だ。

ボカに在籍していたマラドーナは国民的ヒーローで、ヨーロッパのチームでも活躍。魔法の左足から繰り出される卓越したテクニックと小型戦艦のようなプレーに誰もが魅了された。彼の功績を称えて、同国のサッカー協会は彼の背番号10を永久欠番としているほどである。

ホームグランドを私は訪れてみた。すると、長年にわたり熱狂的ファンが通い、グッズの店がずらりと並ぶ。私はボカとマラドーナのマグカップを購入。これに熱いコーヒーを注いで啜りながら、スポーツ医学的に考えてみた。

マラドーナの優れた技術とタイミングは何に由来するのだろうか？ おそらく、生まれつきの素晴らしい素質に加え、子供の頃からタンゴのリズムで育つてききたアルゼンチンの環境そのものが、大きく貢献しているのではないだろうか。

からだに良い習慣、悪い習慣

医者いらず 健康法



板東 浩氏

糖尿病専門医、ピアニスト、スピーディスケーター、著書に「肥満脱出大作戦(南山堂2006)」など